

事業報告書

日時	令和4年3月15日(火) 13:30~16:00
目的	住民と接する機会の多い医療機関・福祉事務所・保健所・学校・保育所等の職員や相談員を対象に、女性に対する暴力などの解決を目指し、性暴力の被害を受けている人たちへの理解を深め、必要な知識の習得を図ることを目的とする。
対象	医療機関・福祉事務所・保健所・学校・保育所等の職員又は沖縄県内の支援機関で相談業務に携わる方
講師	第1部 講師：山田 和枝 氏（沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課 班長） 第2部 講師：竹下 小夜子 氏（さよウイメンズ・メンタルクリニック 院長）
会場	男女共同参画センターていりる1Fホール
定員	40名程度
参加者	46名（女性40名、男性6名）
講演内容(概要)	<p>第1部 性暴力被害者ワンストップ支援センターの役割と相談実績について（山田 和枝 氏）</p> <p>性暴力被害者ワンストップ支援センターとは、性暴力被害者に対し、被害直後からの統合的支援を可能な限り一か所で提供することにより、被害者の心身の負担を軽減し、その健康の回復を図るとともに、警察への届出の促進・被害者の潜在化防止を目的としていると述べ、設置の経緯及び支援体制、医療支援と医療費公費助成制度、相談実績、ワンストップ支援センターの設備等について写真を使用しながら説明をした。</p> <p>もし被害に遭った方から相談があったら、話を受け止めて、具体的な声掛け（「良く話してくれたね」「あなたはわるくないよ」「あなたはひとりぼっちではないよ」「どうしたらいいか、一緒に考えていきましょう」）をしてください。してはいけないことは、責めない・軽視しない・指示や命令、押しつけをしない・同情、気休めを言わない・他の人と比べないことと述べた。最後に、with youおきなわのカードを紹介した。</p> <p>第2部 性暴力被害が及ぼす影響とトラウマ、二次被害について（竹下 小夜子 氏）</p> <p>二次被害を防ぐために、加害者は性暴力を「選択」しており「衝動的」反応ではないことを知ってほしいと述べ、その他にも被害者への二次被害の背景にある様々な「嘘」を指摘した。さらに、多くの人が被害者の「落ち度」を見つけたがる傾向があるが、実際にはどれほど誠実に善良に生きようが被害にあうことはあり、性暴力自体が本質的に理不尽で、被害者は悪くないと述べた。</p> <p>PTSD 患者は繰り返されたトラウマ体験・反応により脳細胞にダメージ（海馬萎縮・脳扁桃体の損傷・前頭連合野の機能低下）が起き、脳器質的な影響をも生じうることを説明した。</p> <p>休憩後、被害者の行動の選択肢について、選択主体は被害者にあることや被害を打ち明けられたときに4つの標準化されたメッセージの中で、最も重要なキーワードは「あなたは悪くない」であるとし、実践で役立つ言葉かけなどを講師の経験を踏まえながら説明した。また、全ての感情（怒り・恐怖・不安・緊張・退屈・空虚感）は役立ち、その感情を感じた自分がどういう行動を選ぶのかはチャレンジできる、うまくいかないこともあるが、成功体験は「あの時の自分は誇らしかった」という自信につながると述べた。</p> <p>最後に、自己分析は役に立たないと指摘し、たしかに過去は大きな影響を及ぼすが、現在・未来は過去だけに縛られてはいない。辛い経験をしたからこそ、ああいう風にはならないと選んでいく力が私たちにはあるという、多くの患者さんから学んだことを今、皆さんに伝えることができ、有難く思うと感謝で結んだ。</p>
	  
	<p>第1部 山田 和枝 氏 第2部 竹下 小夜子 氏 会場の様子</p>
参加者の声	<p>（自由記載欄より抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップセンターについて名称、場所は知っていたが、設置までの流れ、現在の状況について理解できた。 ・ワンストップについて、正しい知識と理解ができた。わかりやすい説明でした。 ・性被害にあった方から、激しい感情が表出し怒りっぱなしの電話がよくかかり、対応していますが、その対応方法のヒントがみつかりました。 ・具体的な声掛けの言葉、受容してはいけない場面を知り、無知は危険だと感じ、勉強になりました。
主催等	主催：沖縄県・(公財) おきなわ女性財団